



## 咬合調整を最小限にするための 咬合器装着と模型改造

関根 明

新潟県歯科技工会所属  
歯科技工生涯研修1期修了  
日技認定講師  
セラビ歯工



歯科技工士がいかに咬合器上で慎重に咬合調整を行っても、口腔内で大量に削合調整されてしまうことは多くの方々が経験していることと思う。

その原因には、大きく分けて3つの要因があると考える。①咬合器装着材料の膨張・収縮による模型の浮き上がり等。②不的確なバイト（いかに精度が高いといわれているバイト材でも、膨脹した石膏模型へ正確に嵌合することは期待できない。弾性があるバイト材はエラーを起こしやすい）。③石膏模型の変形

（石膏や印象材の種類によって模型は変形している。そればかりか、上顎下顎では形が違うため変形の仕方も相違する。トリミングされたファセット通りに嵌合させても完全に合致しているわけではない）。

そこで筆者は、常温重合レジンを利用した咬合器装着方法とTEK状レジンバイトによる模型の改造を行うことにより、咬合精度を高めた歯科補綴物を製作することが可能となつたので、紹介する。

### ◎模型の咬合器装着



fig.1：下顎模型を装着する際、アルミ箔2枚を介在させて石膏により装着する。



fig.2：模型基底部に凹凸をつけける。咬合器側にはアルミ箔しわによる凹凸ができる。



fig.3：常温重合レジンを模型基底部に置き、咬合器を閉じる。



fig.4：1mm程度の間隙をレジンにて補うため、極めて少ない収縮で模型装着ができる。

### ◎模型の改造



fig.5：マスター模型上にて対合歯との間に隙間を与えたレジンブロックを作る。



fig.6：口腔内にて対合歯の圧痕をレジンにて採得する。

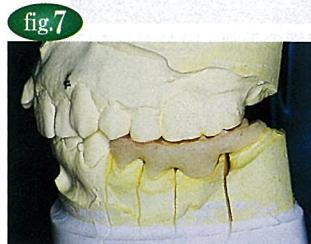
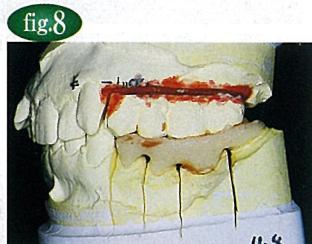


fig.7：模型の変形等によりバイト圧痕通りには嵌合しない。分離し、レジンにて模型を改造する。



●問い合わせ先  
セラビ歯工  
関根 明 (せきね あきら)  
TEL 0256-53-3744  
e-mail : selavi2@cameo.plala.or.jp